
慈悲

広崎咲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

慈悲

【Nコード】

N8261Q

【作者名】

広崎咲

【あらすじ】

以前書いたものの、改訂版です。

あいつを殺したい。できればこの手で。さらに、誰にも気づかせることなく。

僕があいつに殺意を覚えたのはつい最近というわけではない。物心ついた時からずっとある種の殺意のようなものを奴に対して覚えていた。不細工な顔、暗い性格、運動神経や学習能力も人並み以下。そんなあいつに生きる価値などない。

しかし、この殺意は憎しみや怒りといった感情から生まれたものではない。むしろ、悲しみや不憫さからくるものだ。生きているのがかわいそうだから殺す。あいつのためを思つてのことだ。どうだろう。人々はこれから僕がしようとしていることを背徳的行為と非難するだろうか。もちろん、人殺しは倫理に反する。そんなことは百も承知だ。だが、そんな人たちに言つてやりたい。あなたたちに彼の苦しみが理解できるのですか？彼の苦しむ姿を直視できますか？

僕は一番そばであいつを見てきた。あいつが人に嘲笑され、裏切られ、ボロボロになっていく過程を見守ってきた。小学校から始まったいじめは年を重ねるごとにひどくなつて行く。中学生になると、もはやあいつはクラスメイトから人間として扱われていなかった。害虫以下の存在とみなされていた。目が合った、俺と同じ空気を吸つただのという理不尽な理由からの殴る蹴るは当たり前。給食に消しカスを入られたり、便器を嘗めさせられたり、女子の前でオナニーをさせられたこともあった。いじめに気付いているはずの教師も見て見ぬ振り。何故か。それは、あいつが自分の受けているいじめを誰にも公表しようとしなからだ。両親にも言っていない。自分がいじめられているなんて知られたくないからだ。教師はそれが

分かっているから、あえて何もしようとしな。問題にならなければそれでいいのだ。

みじめなあいつの姿を見続けるのは、もう限界だ。僕は決心した。哀れなあいつを苦しみから解放してあげよう。あいつは十分頑張った。14年も生きたん。準備はもう調っている。場所はあいつの部屋。天井からぶら下がったロープ。その先は輪になっている。僕は椅子の上へ乗り、ゆっくりとあいつの首をロープにかける。そして、椅子から体を浮かした。首に自分の体重分の衝撃が走る。僕の視界に部屋に置かれてある鏡が目に入った。鏡には天井からぶら下がったロープに首を絞められ、もがき苦しんでいる僕の姿が映っていた。クラスメイトから気持ち悪いといわれ続けた僕の顔には涙が浮かんでいる。しかし、口元には笑みがこぼれている。

走馬灯のようによみがえる14年間の人生。両親、祖父母に祝福されて生まれてきたはずなのに。いつしか僕は自分自身を客観的にみるようになっていた。それが自分自身を守るために必要だったからだ。傷つき、泣き叫ぶ自分を僕は遠くから眺めていた。ボロボロになっていく自分を、あいつ可哀想だな、と、客観視することで崩壊寸前の心を保ってきた。僕とあいつ。かわいそうなあいつ。かわいそうな僕。でも、もう、客観視することすらできなくなってしまう。

そして、僕はあいつを殺した。僕は遠のく意識の中で考える。僕がしたことは罪なのだろうか。それとも慈悲なのだろうか。

(後書き)

死ぬ気になれば何でもできると言っけれど、それは綺麗事に聞こえる。そんなこと言っている人は本当に傷ついたことがないのだと思う。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8261q/>

慈悲

2011年10月7日17時26分発行